

- 問1 町の中に設置されている「消火栓」は、どのような目的で道路沿いなどに作られているのでしょうか。
- 問2 警察は、事件が起きてから動くだけでなく、事件を未然に防ぐための活動も大切にしています。学校で子供たちに対して行われる、犯罪から身を守るための練習を何とといいますか。
- 問3 多くの地域では、もしもの火災にそなえて「防火水そう」が設置されています。どうして、ただの水道管だけでなく防火水そうが必要なのでしょうか。
- 問4 家が火事になったり、急に具合が悪くなって救急車を呼びたいときは、何番に電話をかければよいのでしょうか。
- 問5 大きな火災が起きて、一つの消防署だけでは足りない場合、消防署はどのような工夫をしますか。
- 問6 台風や地震などの災害が起きたとき、警察官の最も大切な仕事の一つは何ですか。
- 問7 作成した「安全マップ」を完成させたあと、地域全体の防犯のために最も大切なことは何ですか。
- 問8 火災が起きたとき、消防車が消火活動に使う水を「水道管」から取り出すための設備を何とといいますか。
- 問9 警察官が、町の中を歩いたり車でまわったりして、事件が起きないように見守る活動のことを何とといいますか。
- 問10 建物に火災報知設備が設置されている一番の目的は何ですか。
- 問11 警察官が、お年寄りの家などを直接たずねて、犯罪や事故にあわないように気をつけることを伝える活動を何とといいますか。
- 問12 火災や災害が起きたときに、消火や救助活動を行う「消防団」のメンバーは、ふだんはどのような生活をしていますか？
- 問13 近所で事件が起きたり、知らない人について行かれそうになって怖い思いをしたときは、何番に電話するのが正しいのでしょうか。
- 問14 道路のわきや上に取りつけられている、絵や文字を使って、ルールや危険を伝えるための板（看板）のような目印を何とといいますか。
- 問15 警察が地域を巡回して、犯罪が起きないように見守る活動を何とといいますか。
- 問16 夜や暗い道で自転車のライトをつけるのは、前をてらすことのほかに、どのような大切な理由がありますか。
- 問17 子どもが外で不審な人に出会って身の危険を感じたとき、すぐに逃げ込んで助けを求めることができる、地域のみんで協力して守る仕組みの名前は何とといいますか。
- 問18 火が小さなうちに、火が広がるのを防ぐために使う、赤い筒の形をした道具を何とといいますか。

## 答え合わせ・解説 No.1

問1	<b>答え</b> 火災のときに消火活動で使う水を確保するため	火災が起きたとき、消防車に積んでいる水だけでは足りなくなることがあります。消火栓は、水道のせんの役割を果たし、水道管から直接水をくみ上げることで、長時間の消火活動を助ける大切な役割を担っています。
問2	<b>答え</b> 防犯訓練	学校などの場所で、実際に危険なことが起きたときどのように行動すればよいかを確認する活動を指します。警察官が学校を訪れて指導することもあり、子供たちが犯罪から自分の身を守る力をつけるために行われています。
問3	<b>答え</b> 水道管が壊れて水が出なくなったときでも、消火活動を続けるため	大きな地震などで水道管が壊れてしまうと、蛇口から水が出なくなることがあります。また、火災が大きくなると大量の水が必要になります。どんな状況でも消火活動を止めないように、あらかじめ一定量の水を蓄えておくことが重要です。
問4	<b>答え</b> 119番	火事や救急の際に消防署や救急車を呼ぶための番号は119番です。110番は警察につながる番号なので、間違えないようにしましょう。
問5	<b>答え</b> 近所の消防署と協力して活動する	消防署にはそれぞれ担当する地域がありますが、手に負えないほど大きな火災や緊急事態が起きたときには、隣の市町村の消防署とも協力して力を合わせ、人々の安全を守る仕組みになっています。
問6	<b>答え</b> 住民が安全に避難できるように誘導や助けをすること	災害時に警察官が現場へ向かうのは、人々の命と安全を守るためです。混乱が起きやすい緊急時に、住民が安全に避難できるよう現場で交通整理をしたり、道案内をしたり、救助活動を行ったりして、被害を最小限に抑える役割を担っています。
問7	<b>答え</b> マップの情報をみんなで話し合い、知らせ合うこと	安全マップは作成して終わりではありません。情報をみんなで共有し、地域の人たちと「ここはあぶないかもしれない」「ここは安全だね」と話し合うことで、みんなの防犯意識が高まり、より安全なまちづくりにつながります。
問8	<b>答え</b> 消火栓	消火栓は、道路の下を通っている水道管とつながっており、消防隊がホースをつなぐことで効率よく水を確保できるように作られています。地域の火災被害を広げないために、街のいろいろな場所に設置されています。
問9	<b>答え</b> パトロール	警察官は、事件や事故を未然に防ぐために、町の中をくまなく見回るパトロールを行っています。この活動によって、地域の住民が安心して暮らせる環境が守られています。
問10	<b>答え</b> 火事の発生を早く知らせて、安全に逃げやすくするため	火災報知設備は、火事を見つけたときや煙を感じたときに、周囲の人に素早く危険を伝える役割を持っています。いち早く知らせることで、みんなが早く避難したり、初期消火に取り組んだりできるようになり、被害を最小限に抑えることができます。
問11	<b>答え</b> 巡回連絡（じゅんかいれんらく）	警察官が地域の軒一軒の家や会社などを直接たずねて、困っていることがないか聞いたり、犯罪や事故に巻き込まれないためのアドバイスをしたりする活動を「巡回連絡」といいます。
問12	<b>答え</b> 会社員や自営業など、別の仕事を持っている	消防団は、ふだんは自分の仕事を持っている地域の人たちが集まって作られている組織です。火災や災害が発生したときに、消防署と協力して地域の安全を守るために活動します。消防署員のように24時間常に常駐しているわけではありません。
問13	<b>答え</b> 110番	事件や事故、不審者を見かけた際には、警察に通報するために110番へ連絡します。警察に素早く駆けつけてもらうことで、私たちの安全が守られます。
問14	<b>答え</b> 道路標識	道路標識は、道路のわきや上に取りつけられた板（看板）で、車を運転する人や歩いている人に、その場所での決まりや、先に危険があることを知らせて安全を守るためのものです。これらを正しく理解して守ることが、事故を防ぐためにとても大切です。
問15	<b>答え</b> パトロール	警察官が町の中を歩いたり、車やバイクに乗って見回ったりすることを指します。地域の人々の目に見える場所に警察官がいることで、犯罪をしようとする人を思いとどまらせる効果があります。
問16	<b>答え</b> 車や歩行者に自分の存在を知らせるため	自転車のライトには、前をてらして道路の様子を見やすくするだけでなく、車を運転している人や歩いている人に「ここに自転車がありますよ」と自分の存在を知らせる大切な役割があります。これにより、お互いに早く気づくことができ、事故を防ぐことができます。
問17	<b>答え</b> こども110番の家	「こども110番の家」は、子どもたちが身の危険を感じたときに駆け込めるよう、地域の人たちが協力して登録している一般の家庭のことです。地域全体で見守りを行うことで、子どもたちが安心して過ごせる環境を作っています。
問18	<b>答え</b> 消火器	火災が起きたとき、まだ火が小さい段階で消し止めることを「初期消火」といいます。消火器は、誰でも持ち運んで操作できるように作られており、初期消火を行うためにとても大切な道具です。